

Kohara
Racing TeamKenta Fujii / Shizuka Okazaki / Kazuki Yukimura
2019 MFJ ALL JAPAN ROADRACE CHAMPIONSHIP SERIES

2019 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦
スーパー・バイクレース in OKAYAMA
岡山県 岡山国際サーキット(1周3.703km)
 ■藤井謙汰 J-GP3 予選: 11番手(タイム:1分38秒831) 決勝: 6位
 ■岡崎静夏 J-GP3 予選: 13番手(タイム:1分39秒195) 決勝: 15位
 ■行村和樹 ST600 予選: 32番手(タイム:1分35秒213) 決勝: 28位
 2019年8月31日(土) 公式予選 天候: 晴れ コース: ドライ
 9月1日(日) 決勝 天候: 曇り/雨 コース: ドライ/ウェット
 観客動員数: 7,600人(2日間合計)



- | | |
|-----------|--|
| 5 | 藤井 謙汰 Kenta Fujii
class : J-GP3
machine : NSF250R |
| 13 | 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : NSF250R |
| 14 | 行村 和樹 Kazuki Yukimura
class : ST600
machine : CBR600RR |

厳しい結果を受け止め次に進む



6月末の第4戦筑波から約3ヵ月のインターバルで迎えた第6戦岡山。Kohara Racing Teamの参戦するJ-GP3クラスとST600クラスは、今回からシーズン後半戦に突入。その初戦となるだけに、残りのレースに弾みをつけるべく、トレーニング合宿を行い、チームとしてもライダーをバックアップして臨んでいたのだが…。

前週に行われた公開テストから、いろいろセッティングを試して行くが、3人とも、なかなかタイムを出せないでいた。レースウイークの天候も予報は、よくなく先の読めない部分もあったため、レースウイークに入ってからが勝負と切り替え、テストのデータを検証し、マシンの方向性を話し合って初日の走行を迎えていた。

金曜日は雨予報だったが、1本目のみウェットになり、2本目は、ドライコンディションでの走行となっていた。ST600クラスは、48台が出走。2グループに分かれての走行となり、公式予選は、20分の走行が2セッションで行われた。

土曜日は朝から快晴となり、まずST600クラスの1回目の予選が行われた。Aグループに出走した行村だったが、マシントラブルが発生し、ピットイン、アウトを繰り返し、1回目は計測なしの最下位となってしまう。ほとんどの

ライダーが路面温度の低い1回目にベストタイムをマークしていたが、2回目があったことで、何とか予選を通過できていた。

J-GP3クラスの岡崎は、コースインし、集団の中で周回を重ねながらペースを上げて行っていたが、不具合を感じていたため、ピットに戻ろうと思っていた。その矢先にパイパーコーナー進入でフロントから転倒。左手首と左手の親指を痛めてしまう。セッション序盤で予選終了となってしまい、その時点のタイムで



13番手と不本意な結果となってしまう。藤井もマシンセットを大きく変えながらセッションをこなし11番手となっていた。

日曜日は朝のウォームアップ走行から雨がパラつく不安定な天候だったが、J-GP3クラスは、何とかドライコンディションで行われた。岡崎は、痛み止めとテーピングをしてレースに



臨んだが、本来の走りにはほど遠く、完走するのが精一杯だった。藤井はセカンドグループの混戦を戦い抜き6位でチエッカーを受けた。

ST600クラスはウェットレースとなり、周回数は3周減算の16周で争われた。路面はウェットだが、雨は降っておらずコンディションは周回毎に変わって行った。行村にとって得意としているシチュエーションだったが、今回はペースを上げられず苦戦。ポイント獲得はならなかった。



藤井 謙汰 コメント

「前半戦で今年から使わせてもらっているダンロップタイヤと車体との合わせ込みを行ってきましたが、岡山国際サーキットは、よく知っているコースなので公開テストから、自分自身がタイヤに順応できていない部分が浮き彫りになっていました。レースウイークに入って天気に翻弄された部分もありましたが、いい方向にセットは進んでいました。ただペースタイムが低く採りきれなかった部分があつたので残り2戦では、その課題を解決して上位を目指したいと思います」

岡崎 静夏 コメント

「すべては予選での転倒が原因でレースを台無しにしてしまいました。ちょうど、不具合を感じていたので次の周にピットに戻ろうと思っていたところ、ギャップに乗ってしまいフロントから転倒と、想定のことだったのですが、左手首と左親指を痛めてしまい、思った以上に影響が出てしまいました。骨折はなかったので、次回のオートポリスは、テストからいい流れをつけて表彰台を狙って行きたいです」

行村 和樹 コメント

「岡山国際サーキットは、ホームコースなので、いい結果を残すと気合いが入っていましたが、公開テストでは、転倒もあり、なかなかいいリズムで走ることができませんでした。その翌日にあつたスポーツ走行を走つたら、いいフィーリングになってきていたのですが、レースウイークに入ると感触が変わってしまいました。予選1回目は、電気系トラブルで走ることができず、2セッションあつたのが幸いし予選は通ることができました。決勝も得意なコンディションだったのですが、マシンが決まっていなかつたのでペースを上げられず悔しい結果となってしまいました。気持ちを切り換えて次のレースを頑張ります」

小原 齊 監督 コメント

「今回は、非常に厳しいレースでした。結果的には、藤井が6位になりましたが、堅実に走ったところ最終ラップに上位2台が転倒し、転がり込んできたリザルトですから。このインターバルでは、エビスサーキットなどでトレーニング合宿を行い、チームとしてできることはやってきたのですが、次回のオートポリスに向けて違うアプローチを考えなければならないと思っています。今回のことのようなことがないよう、しっかり準備して第7戦オートポリスに臨みます」

Kohara
Racing Team

〒336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田607-1
TEL.048-878-7020 FAX.048-878-5688

NISIN

YUTAKA
Chain for the FutureRK
TAKASAGO CHAINNGK
SPARK PLUGS

MOTUL

X-RAM

(F.C.C.)

Microlon

ENDURANCE
RACING

B-TITANIUM

FRICTION

KDC
SERVICE